
平成 27 年

8 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

活力ある新産地づくり

下呂農林■スイートコーン 愛称を募集中！

8月5日（水）、下呂市スイートコーン研究会は下呂市の新たな特産品として同研究会が生産するスイートコーンの愛称募集を開始した。

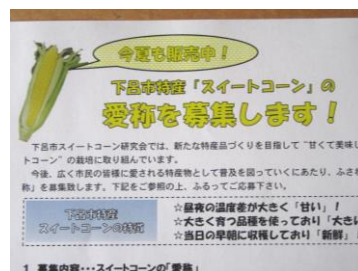
応募用紙は市内の主要直売所に設置してあり、地元住民や観光客等を対象に9月末まで募集を行っている。年末にかけて研究会で応募作品の選考を行い、愛称が決定される。

これを受けて、今後は、高品質な出荷物や新たな商品等に愛称を付けて販売する計画である。

7月12,19日、下呂市スイートコーン研究会と県立益田清風高等学校（ビジネス会計科）との共催により、市内量販店にてスイートコーンの販売イベントを開催した（20名参加）。

生徒自らが萩原町のほ場で栽培したスイートコーンを当日早朝に収穫し販売した。開始後約2時間で完売する盛況ぶりだった。

今後は収穫物をコーンポタージュやアイスクリームなどに加工し、売り出しを図っていく計画である。



【愛称募集用チラシ】

売れる農畜産物づくり

揖斐農林■茶 農林水産大臣賞、産地賞を獲得！～関西茶品評会～

「第68回関西茶業振興大会品評会」の審査会が8月5～7日に揖斐川町で行われ、結果が公表された。出品点数は関西茶に関係する6府県の5茶種計538点。煎茶の部で(農)桂茶生産組合が1等1席「農林水産大臣賞」をはじめ2、3、11、12席を、美濃西部製茶組合が5席を獲得した。また、2等4点、3等4点を獲得し、市町村ごとに出品茶のうち上位3点の合計得点により競われる産地賞は揖斐川町が合計得点595点で第1位を獲得した。

褒賞授与式は11月15日に揖斐川町地域交流センターで開催される大会式典において行われ、産地賞を獲得した揖斐川町に優勝旗が手渡されることになっている。茶産地、関係機関が上位入賞に向けて一体となって取り組んだ努力が見事に実を結んだ成果である。今後も、農業普及課として入札販売会、消費拡大イベント、式典等大会全体の成功に向けて支援を行い、茶業振興、「美濃いび茶」のブランド化に繋げていく。



【審査会の様子】

郡上農林■水稻 郡上産米のブランド化を検討

8月26日、農業普及課主催で郡上市やJAめぐみのに呼びかけて、郡上産米のブランド化に関する企画会議を初めて行った。

会議では郡上管内生産者を対象とした良食味米コンテストを行うことを決定した。また、11月にはコンテスト決勝大会と併せて郡上産米ブランド化検討会を開催し、良食味米に関する研修会やブランド化に向けた意見交換会を行うことになった。

米価が下落する中で、郡上産米のブランド化とそれに伴う価格の維持・上昇のため生産者と共に取り組んでいきたいと考えている。



【ブランド化企画会議】

恵那農林■水稻種子 採種ほのほ場審査を実施

三郷米麦採種生産組合（恵那市）は、コシヒカリをはじめ、あきたこまち、ココノエモチの優良種子生産を約60haで行っている。

農業普及課では、県関係課、試験研究機関、JA等の関係機関の協力により、健全な水稻種子の生産・供給を支援するため、7月24日から8月28日に3品種の出穂期、糊熟期におけるほ場審査を実施した。

複数班に分かれて対象の全てのほ場ごとに審査し、異品種や病害虫発生の有無及び栽培管理状況を確認し、審査後には各組合員に対して改善すべき事項等を助言した。

今後、発芽率等の審査を実施し、優良種子の確保に向けた支援を継続する。



【ほ場審査の様子】

農業経営課 ■ 和牛繁殖 飛騨和牛生産協議会女性部による現地研修会を開催

8月19日（水）高山市のパスカル清見において飛騨和牛生産協議会女性部（部長：平田嘉子）の現地研修会が開催され和牛繁殖農家等28名が参加した。

研修会では農業経営課高山市駐在の革新支援専門員が「肥育農家に喜ばれる子牛づくり」と題して和牛の子牛を健康に育てる技術を解説した後、（一社）岐阜県農畜産公社飛騨牧場に移動し子牛の飼養管理等について現地視察を行った。平成29年度に宮城県で開催される第11回全国和牛能力共進会肉牛の部に出品する子牛の分娩が9月からはじまり来年春のあっせん会まで繁殖農家が子牛を飼育することから、出席者からは健康な子牛を育てるための管理技術等について数多くの質問が出された。

同協議会では青年部や各地域単位で研修会を開催し、第11回全国和牛能力共進会での飛騨牛日本一獲得をめざして子牛育成技術の一層のレベルアップを図る計画としている。



【飛騨牧場の視察風景】

戦略的な流通・販売

岐阜農林 ■ いちご 岐阜いちごマーケティング調査を実施

8月6日、イオンリテール(株)各務原店において、JAぎふ、JA全農岐阜の担当者らとともに、管内いちごの市場評価と実需者ニーズを把握するため、いちごマーケティング調査を行った。

イオン担当者からは、「岐阜いちごは、値ごろ感があり、濃姫、美濃娘とも良く売れており、食味は美濃娘の方が人気がある。年内は、200g入りの少量パックの売れ行きが良い。ただ、3月上旬頃に過熟果のクレームが多い。」などのコメントをいただいた。

また、今後の売れるアイテムとして、「濃姫と美濃娘を食べ比べできるセット品の販売、年末年始等の化粧箱出荷を増やして欲しい。」との要望があった。

農業普及課では、今回の調査結果を踏まえ、いちごの品質管理やアイテムの開発などについて支援する予定である。



【マーケティング調査の様子】

多様な担い手育成・確保

中濃農林 ■ 集落営農 関市上白金地区で農事組合法人を設立

8月18日、関市上白金地区で飼料用米生産を主体とした農事組合法人の設立総会が開催された。平成24年から任意のグループで飼料用米を生産してきたが、経営所得安定対策や農地中間管理事業等の各種施策や事業を効率的に活かした地域ぐるみの営農活動を行うため、農事組合法人を立ち上げることとなり今回を迎えた。

昨年12月に関市農業再生協議会が同地区で開催した、岐阜県農業



【設立総会風景】

会議の経営改善スペシャリスト（税理士）相談会を契機に、地元生産者と市・J A・農林事務所等で今後の地域農業のあり方等について検討会を重ね、地元の意向を踏まえながら、営農組合の定款や営農計画・経営収支計画作成等について、関係機関が一体となって支援活動を行ってきた。

今後も、担い手不足や耕作放棄地対策等の課題がある地域等に対して、関係機関と連携して集落営農組織化等の活動支援を行う。

可茂農林■集落営農 御嵩町伏見地区で農地中間管理事業の全体説明会を開催

7月10日～8月1日、営農組合・町・J A・農林事務所など関係者が連携のもと7集落で農地中間管理事業に関わる集落座談会を開催し、8月4日には各集落座談会の説明を受けて事業に関心ある農業者を対象とした全体説明会を開催した。

全体説明会には32名（内1組夫婦）の農業者が出席し、農地中間管理事業を活用して地域の担い手に農地を集積することに関して活発な意見交換が行われた。意見交換後、農地の貸付に対する意向調査を実施した結果、14名が貸し付けたい、13名が検討中、4名が希望しないと回答があった。出席人数、参加者の意向ともに当初の予想を上回るものであり、各集落座談会等での丁寧な説明が重要であることを実感した。

今後は、集積面積を精査しながら積み上げていく予定であり、初めて取り組んだ集落（一部集落は昨年度に事業実施）で本事業を活用することに想像以上の成果を得られたことは、関係機関や担い手にとっても大きな励みとなっている。今後も関係機関・担い手と一丸となって、事業推進にあたっていく。



【全体説明会の様子】

東濃農林■農業経営者協会 管内視察研修と就農希望者との交流会を開催

土岐地域農業経営者協会は8月24日、農業経営者協会員の経営状況を視察し自己研鑽と情報交流を図ることを目的に視察研修会を開催した。土岐地域在住の農業経営に関心のある就農希望者にも参加を呼びかけ、地域の農業の魅力を感じてもらおうとともに、会員との情報交流を図った。

視察では、瑞浪市及び土岐市の会員4名の栽培ほ場を見学し、経営状況について説明を受けた。視察の途中に開催した交流会では、会員や関係機関から就農希望者へ就農に向けてのアドバイス等もあり、活発な意見交換をすることができた。

今後は11月に県外視察研修、1月に多治見市方面の管内視察研修を予定しており、今回と同様に新規就農者や就農希望者にも参加を呼びかけることとしている。

管内の主要な農業者が会員となっている本協会は、農業者同士の交流及び次世代育成の場としても重要な役割を果たしており、農業普及課としては今後も支援を継続していく予定である。



【管内視察研修会の様子】

飛騨農林■担い手 青年就農給付金受給者の経営状況を確認

高山市、飛騨市では、青年就農給付金の受給者を対象とする就農状況確認調査を行った。対象者数は高山市28名、飛騨市6名で、各市の担当者、J Aおよび農林事務所が協力して、本人に現在の経営規模、生産量、売上高、ほ場の状況、帳簿の管理状況等を聞き取り、課題や今後の経営方針について確認した。

計画以上の生産量や売上を達成している就農者も多いが、計画通りに進んでいない就農者に対しては、生産技術、経営管理などの面でアドバイスを行い、今後更に濃密な指導を実施していく。



【就農者からの聞き取り状況】

県民みんなで育む農業・農村

西濃農林■朝市直売所 朝市農産物生産研修会を開催

8月3日、農業普及課主催で朝市農産物生産研修会を開催し、西濃地域の朝市直売所生産者や関係者など66人が出席した。

研修会では、農業普及課等から「農産物の食品表示について」及び「野菜などの病虫害防除について」説明し、直売所での適正な食品表示や農薬の安全使用について呼びかけた。また、これに併せて農薬の安全使用を啓蒙するために「朝市農産物に使われる主な農薬の使用の目安」を2400部印刷して各直売所へ配布した。



【研修会の様子】